



Vol. 17 / Serial
No.385

2026. 9. 1.
(8pgs)

Copyright © 2026 by Bosai Plus. All rights reserved.

■ CONTENTS ■

- P. 1 **【巻頭企画】**
本紙創刊16周年 謝辞
- P. 2 **【創刊16周年 特別企画！】**
八王子避難訓練コンサート
本紙特約: 関町佳寛リポート
- P. 5 **【話題を追って】**
BOCOコンテスト
「日本の次の防災」
- P. 6 ・訃報: 玉田三郎さん
防災士生みの親、育ての親
- P. 7 ClipBoard = 着信あり！ =
災害・防災情報リンク集

＜特設コーナーへのリンク＞

★2026年9月/10月/11月
防災3カ月イベントと災害カレンダー
(この日起こった災害 付き)

[各 CONTENTS をクリックすると
そのページへジャンプします]

リニューアル! ソフトオープン



bosai-plus.info

Bosai Plus ホームページでも、いろいろ
ご活用いただける話題を提供しています。

[巻頭企画] 9月1日 防災の日 & 本紙創刊の日

ゴールは遠いが、しっかり見える。 「災害犠牲者ゼロ」を目指して。

創刊16年——「志」は変わらず「災害犠牲者ゼロ」にむけて、ボランティア紙として“持続は力”。

2011年3月11日: 東日本大震災(巨大地震と大津波)、
2014年8月20日: 広島土砂災害(集中豪雨による土砂
災害)、2016年4月14日以降: 熊本地震(震度7が連続発
生)、2018年7月: 西日本豪雨(広域で浸水と土砂災害)、
2018年9月6日: 北海道胆振東部地震(大規模停電が発
生)、2019年10月: 東日本台風(河川氾濫が多発)、
2020年7月: 令和2年7月豪雨(九州中心に大被害)、
2024年1月1日: 令和6年能登半島地震(石川県で甚大
被害)、2026年7月28日: 令和8年熊本地震(熊本で10
年ぶり3度目の震度7)、2026年8月13日・14日: 令和8
年8月千葉豪雨(千葉県を中心に関東地方で発生)、
2026年8月末: 石川県、福井県に大雨特別警報……

上画像: 本紙が創刊した2010年9月1日以降、わが国で発生した主な災害を列記してみた。「防災プラス」創刊の動機は、
阪神・淡路大震災以来、日本列島が地震活動期に入ったという知見や、地球温暖化による異常気象・大雨災害の頻発傾
向、そのいっぽうで防災士制度・防災士への認知度・信認性の進展があった。そして創刊から7カ月で東日本大震災という
千年に一度の稀有な大災害の洗礼を受けたことで、本紙の志は揺るぎないものとなり、ゴールを見つめ、めざし、歩む……

「防災プラス」は配信無料のボランティア紙です。協賛支援を募集中！

《Bosai Plus》は本号をもって創刊16周年を迎えました！

読者のみなさまのご愛読・ご支援に心より御礼を申し上げます。

【創刊16年——「志」は変わらず 「災害犠牲者ゼロ」にむけて】

「ゴールは遠いが、しっかり見える」をキャッチフレーズに、防災ニュースレタ
ー《Bosai Plus》は2010年9月1日・防災の日に創刊しました。それから16年、本
号発行で創刊16周年となります。この間幸いにも、毎月1・15日の定期発行を
粛々と守り続けることができ、数えて本号はNo.385となります(東日本大震災を
受けたNo.14+「EXTRA」=号外、No.15+「EXTRA」の臨時発行2号含む)。

今後とも「安全・安心社会」、「災害犠牲者ゼロ」の志を貫き、防災情報のご提
供に努める所存です。引き続きご愛読・ご支援のほどをお願い申し上げます。

《Bosai Plus》編集部

【創刊16周年号 特別企画！】避難訓練体験コンサート in 八王子 本紙特約記者：関町佳寛(写真も)



演奏前の事前説明で頭を守る態勢をとる参加者

コンサート形式で行う避難訓練として 国内有数の規模で実施

事前応募の一般来場者と車いす利用者を含む約600人が参加
八王子市民会館共同事業体が主催、
消防署、防火防災協会、海上自衛隊東京音楽隊、大学等多機関が連携



地震発生「落ち着いて、その場で頭を守ってください」

本紙特約記者：関町佳寛(写真も)



「第13回 避難訓練体験コンサート in 八王子」
のチラシより
(画像クリックで拡大表示／以下同様)



J:COMホール 八王子

8月26日、J:COMホール八王子で「第13回 避難訓練体験コンサート」が開催された。

主催： 指定管理者（八王子市民会館共同事業体）
館長：坂井 誠治
後援： 八王子市・サザンスカイタワー八王子
協力： 八王子市消防署、八王子防火防災協会
出演： 海上自衛隊東京音楽隊
連携： 早稲田大学人間科学部 佐野友紀研究室、
東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科 畠山雄豪研究室
参加者： 事前応募の一般来場者と車いす利用者を含む約600人。
コンサート形式で行う避難訓練としては国内有数の規模。

○訓練の流れと連携の仕組み：

訓練は、演奏開始前に館長より大規模施設ホールでの地震時の身を守る行動ほか施設の安全性・避難時の注意事項概要説明があり、海上自衛隊音楽隊は本来なら避難者の支援にあたるが今回は参加者の避難行動調査を兼ねているので誘導支援せず、退出する旨の説明。自らの行動と限られたスタッフの誘導支援で参加者の避難行動を検証する。

○訓練体験：

コンサートを十分に楽しんだ終盤に、大音響と光点滅で大地震を体験、防災センターの警笛音に緊張する参加者は詳細確認中のアナウンスによりその場で待機を指示されるが、すぐ火災発生による延焼の恐れから、待機から避難開始の指示が出される。

プロの生演奏がホールに響き、歌手の歌声に魅了されるなかで、訓練の視覚的・体験的な不条理性と現実性が一気に明らかになる——十分演奏を楽しんだ後半に地震の合図が入って演奏が突然止まるという非日常的な体験。実際の大地震発生時も、その場の状況、都合におかまいなく、空気が一変するという緊張感ある訓練コンサートだ。

〈P.3へ続く〉



海上自衛隊東京音楽隊のコンサートの最中に地震が発生、1度目は安全を確認しコンサート再開。2度目は、火災が発生し消火不能で全員避難でコンサート中断・終了、1階前の広場で避難完了解散と言う流れ。自衛隊初の專業歌手・三宅由佳莉さんは「赤いスイートピー」と「川の流れるように」の2曲を熱唱した

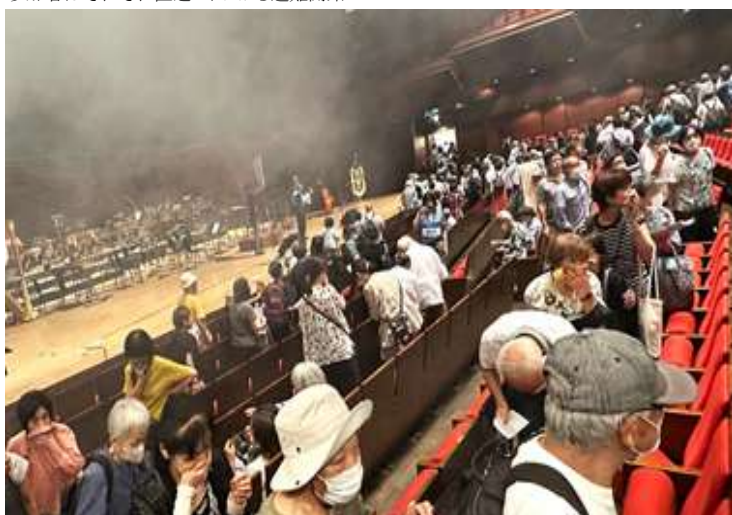


地震発生「落ち着いて、その場で頭を守ってください」



舞台付近で火災が発生し消火中

参加者はそれぞれ直近のドアから避難開始



地震発生の場合と同時に、コンサート会場ステージ上のスタッフが「落ち着いて、その場で頭を守ってください」と音声案内、地震による身を守る大きな図がスタッフにより掲示されたのは、音声の不調な場合に備えたものだ。防災センターのアナウンスにより地震の詳細情報が入る。建物は安全なので次のアナウンスまで待機の指示。

舞台付近で火災が発生し消火中のアナウンス。消火中に会場内に煙が拡散し、延焼の恐れからスタッフの誘導により避難開始の指示。参加者はそれぞれ直近のドアから避難開始、避難口より廊下、階段を利用して5階から1階まで廊下階段をおり、出口から外の広場へ出て避難訓練体験は終了。広場では参加者のアンケートを収集。希望者は放水体験、煙体験もできた。

● コンサート会場での緊急避難行動の検証 多様な人びとが同じ条件で避難する経験

今回の訓練の特徴は、実際のコンサートに近い環境で、多数の参加者の避難行動を検証できる点にある。早稲田大学と東北工業大学の研究室では、劇場からの避難行動や誘導方法、災害時の人間行動などについてデータを収集・分析している。

過去の訓練では、特別な指示がない場合、参加者が最短距離の出口に分散して避難する傾向が確認されたという。この結果を踏まえ、避難者の自然な行動を尊重しながら、混雑状況に応じて誘導することが課題となっている。

いっぽう、車いす利用者や歩行に支障のある高齢者など、避難に支援を必要とする人への対応には、なお検討すべき課題がある。施設側では、要配慮者の避難経路や対応方法の見直し、車いす用スロープの改善などを進めている。

車いす利用者および支援のサポーターの声からは、今回の訓練で参加者は皆落ち着いて避難ができたが、実災害時では混乱し、車いすを含めると120kgにもなる障害者をスロープなしの会場で避難させることはかなりむずかしく、障害者のみを担架で避難させるにも6人が必要とのことで、今後の大きな課題だ。

海上自衛隊音楽隊は単なる出演者ではなく、訓練のリアリティ向上、防災研究の観点からも重要だ。本来、災害時には避難誘導にあたるが、今回は訓練なので参加者の誘導支援はせず退出した。実際のコンサート環境を演出することで参加者の注意力散漫状態が確認できたとの声も。

坂井誠治・八王子市民会館館長は、災害時には「今起きていることを正確に伝えること」また、「スタッフ自身が落ち着いて行動し、来場者の混乱を抑えること」が重要だと指摘、さらにコンサート訓練の重要性について次のように述べる——「毎年、条件を変えながら訓練を続けることで、スタッフの対応力も向上している。連携大学による分析では、扉の開閉や避難経路の選択など、施設側だけでは気づきにくい課題も明らかになっている。避難訓練コンサートは、単に『避難する方法』を学ぶだけの訓練ではない。実際のコンサートに近い環境で、突然の災害情報を受け、周囲の人とともに行動することで、参加者自身が災害時の行動を具体的に考え、体験する機会となっている。また、障害のある人、高齢者、外国人など、多様な人が同じ場所で避難する経験は、要配慮者への支援や、参加者同士の助け合いについて考えるきっかけにもなる」

今回の訓練で得られたデータや知見は、今後、同施設の避難計画だけでなく、同様の大規模施設における避難計画や防災対策の検討にも活用されることが期待される。

「実際の災害時に近い状況で、人はどのように動くのか」——

その答えを現場で確かめる避難訓練体験コンサートは、施設防災と市民参加型防災を結び付ける取り組みとして、今後のさらなる展開が注目される。本紙としても今後の避難訓練体験コンサートの試みに注目していきたい。



訓練に参加した車いす利用者とヘルパーのみなさん



コンサート訓練終了後に希望者は放水体験、煙体験も



八王子消防署。東京消防庁第九消防方面本部に所属する消防署。八王子市全域を管轄とし、消防特別救助隊が配備されている



2024年9月1日号(No. 337)でも避難訓練コンサートを関町がレポート(画像クリックで本文へリンク)

● 早稲田大学・東北工業大学の研究室が連携 学術的知見の収集 市民の訓練と同時に、運営スタッフのスキル向上にも大きな貢献

J:COMホール八王子でのコンサート訓練事例では、早稲田大学・東北工業大学の研究室が連携し、避難行動の分析・大規模施設の誘導設計・災害時の人間行動などの研究データを収集している。今回の研究テーマとしては、大型ビルの中高層階にある劇場からの実践的な避難行動を調査・分析。実施主体はJ:COMホール八王子だが、コンサートの最中に地震・火災が起きて避難するという実践的な取り組みは大変重要かつ価値のある試み。

また、中高層階の大規模集客施設には、安全な避難計画・誘導が求められ、同ホールは毎年訓練を行っており、適切な対応が行われているが、高齢社会でコンサートホールの高齢者利用も増えているため、さらなる安全対策の検討が必要。

建物は安全に設計されていることを避難者へ周知徹底し、慌てず速やかに避難する誘導を行う。階段での避難が困難な人については、自衛消防隊による救助や、安全が確認できれば非常用エレベータの利用なども検討。

過去の検証でうまくいった点と反省点は、避難者は特別な指示をしない場合、最短距離の出口に分散して避難するのでこれに合わせて誘導。車いす利用者や歩行に支障のある高齢者の避難計画は未確定な部分が多く、健常者と別の方法で避難する必要など。今後、同施設にとどまらず避難計画や公的なガイドライン等への提案を予定。

大規模集客施設での災害時避難訓練が毎年実践されていることは高く評価できる。また、市民に向けた訓練と同時に、運営スタッフのスキル向上にも大きな貢献となっている。実践的な劇場避難訓練、研究事例は国内外でも少なく、国際的にも高く評価されている。

● ビル防災センター、消防署との連携は最重要 「八王子駅周辺滞留者対策推進協議会」との連携も

以下、坂井誠治・八王子市民会館館長の総括とりまとめを記録しておく。

- 1：施設運営の危機対応力から過去の訓練データの改善点
 - ホール後方扉からの避難者が少ないので状況を見て空いている出口へ誘導
 - 要援護者の避難経路と対応を再検討
 - 車いす用段差スロープ幅の改善
- 2：地域連携の強化
 - ビルの防災センター、消防署との連携が最重要
 - 「八王子駅周辺滞留者対策推進協議会」で周辺施設、企業、自治会などと連携
- 3：想定される参加者が得られる防災知識(リテラシー)について
 - ホールという特定の場所で、ある程度の緊張感を持って非常時の流れを体験
 - 同時に消火器操作やAED体験等、展示を通して一般的な非常時の対応もお伝えする。
- 4：障害者・高齢者・外国人など要支援者向けの施設側の対策
 - 「八王子障害者団体連絡協議会」に参加協力を依頼。高齢者(フレイルシニア)についても状況により、安全な場所で一時待機してもらうなど対応を検討中。多言語情報伝達については、基本的なアナウンスの合間に、適宜英語でのコメントを入れている。

【訓練を通じて得られた 関町特約記者の知見】

- 避難訓練コンサートの参加者が得る「行動科学的メリット」

災害時に“実際に動ける人”へと変わるための心理・行動の変化で、通常の講義型防災では得られない効果。行動科学の研究でも「体験型防災は行動変容率が高い」とされる。

○「集団で避難する経験」は、実災害時の行動率を大きく上げ、災害時に“迷わず動ける人”になる。災害時、人は周囲の行動に強く影響される同調行動をとるが、避難行動を体験すると「避難は怖いものではない」「やってみたら意外とできる」という心理的安全性の向上感情が生まれ、不安が減ると災害時の行動率が上がる。

- 弱者支援の視点が育つ(共助行動の活性化)

避難訓練コンサートには、車椅子利用者、高齢者、外国籍の参加者など、多様な人が参加する。これらの弱者と共に避難行動が共助行動を活性化する

●【話題を追って】BOCOコンテスト:日本の次の防災

BOCO:日本の「次の防災」 6つの新たな防災ビジネス 「BOCO防災事業コンテスト BÔSAI EVOLVE 2026」 最終審査会を9月12日 開催



BOCO「防災事業コンテスト」ロゴより
(画像クリックで拡大表示／以下同様)



防災士研修でもお馴染み、目黒公郎・BOCO代表理事／東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授による講演の様子 (BOCO HPより)



BOCO主催事業成長支援型コンテスト「BOSAI EVOLVE 2026」



「Bosai Plus」2025年4月15日号 (No.352) による「シェルターワンが避難所を変える」紹介ページ

■ファイナリスト6社が、それぞれの視点から新しい防災の社会実装に挑む

一般社団法人防災事業経済協議会 (BOCO／代表理事:目黒公郎・東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)は、来たる9月12日、東京都・Incubation CANVAS TOKYOにおいて「BOCO防災事業コンテスト BÔSAI EVOLVE 2026」の最終審査会・表彰式を開催する。同コンテストは、防災分野におけるアイデアや技術を研究や提案で終わらせるのではなく、「実際に社会で使われ、継続・発展する事業」へ育てることを目指している。

災害への備えは「いつか必要になるもの」ではなく、社会の日常のなかに組み込むべき重要な課題となっている。9月12日の最終審査会には、全国50の防災事業のなかから選ばれた6社が登壇する。彼らが挑むのは、従来の防災の枠にとらわれない「新たな防災のかたち」だ。共通するテーマは「防災を、災害が起きた時だけのものにしない」こと——「平時から使う地図DXを災害対応へ生かす」「マンション住民の日常的なつながりを共助へ変える」「ゲームを通じて市民の防災参加を促す」「災害時のトイレや避難所環境という命と健康に直結する課題を解決する行政による『公助』」「一人ひとりの「自助」に加え、企業の技術やビジネスの力によって社会全体の防災力を高める」——ファイナリスト6社が、それぞれの視点から新しい防災の社会実装に挑む。

【最終審査進出6社】(順不同)

1. 株式会社はんばさき:共有地図 LivMap

平時のインフラ管理画面DXによる災害レジリエンスの向上。道路・水道管理など平時の業務から活用し、発災時の迅速な被害状況把握につなげる。

2. 奈良建設株式会社:災害時排水切替システム

断水や排水機能停止時にもトイレを可能な限り使い続けるための仕組みを提案。避難生活の衛生環境と災害関連の健康被害という重要課題に挑む。

3. 株式会社シェルターワン:避難所環境を改善するシェルターワン事業

トイレ、シャワー、キッチン、ベッドなどを広域連携で迅速に届け、避難生活の環境改善を目指す事業。目標は発災後48時間以内の対応。

[>>「Bosai Plus」2025年4月15日号 \(No.352\):シェルターワンが「避難所を変える」](#)

4. NPO法人まもるをまもる:防災サウナ訓練支援事業

サウナを「楽しみながら参加する防災訓練」と、災害時の入浴・温熱支援に活用。平時と有事をつなぐ新しいフェーズフリー型の防災モデル。

5. 株式会社コネブラ:GOKINJO (ゴキンジョ)

マンション住民の日常的なコミュニケーションを、災害時の安否確認や助け合いにつなげるプラットフォーム。「顔の見える共助」をデジタルで支える。

6. 株式会社Digital Entertainment Asset:ピクトレ防災チャンピオンシップ2026

位置情報ゲームを活用し、市民が地域の防災設備や避難場所を発見・記録。「防災を、やられるものから参加したくなるものへ」変える挑戦。

[>>「Bosai Plus」2026年5月15日号 \(No.378\):市民協働型防災DX "ピクトレ"](#)

【最終審査会開催の目的】

防災を「コスト」から「未来への投資」へ——今回の6社が挑むのは、防災を単なる備蓄や非常時対策として捉えるのではなく、日常の暮らしや事業活動の中に防災を組み込むこと。次の災害が起きた時に何をするかではなく、次の災害が起きる前に社会をどう変えるのか。防災を行政任せにせず、災害に関連する被害を少しでも減らすために「今」何ができるのか。避難所で生活することになった場合に備えて、平時から何を準備すべきなのか。マンションや地域で、いかに「知らない人同士」のまま災害を迎えないようにするのか。

BOCOは、防災を「コスト」ではなく、社会のレジリエンスを高める「未来への投資」と考えている。9月12日の最終審査会では、こうした日本の防災課題に対し、民間の知恵と技術で挑む6社が、自らの事業モデルと社会実装への展望を発表する。

[>>BÔSAI EVOLVE 2026:コンテストページ](#)

● 訃報 玉田 三郎 さん（日本防災士機構 専務理事）

防災士・防災士制度 提唱者、生みの親・育ての親

本紙提携紙＝防災情報新聞を創刊



故 玉田三郎さん（2021年10月、本紙・高嶋撮影）

防災士・防災士制度の提唱者、生みの親・育ての親として防災関係者に知られる玉田三郎さん（日本防災士機構専務理事、日本防災士会参与、防災士研修センター最高顧問、防災情報新聞創刊・社主などを歴任）が、2026年8月16日、死去されました（享年92歳）。日本防災士機構によると、後日、「お別れの会」を開催予定。

今日、防災士認証者数は累計36万名を超えました（2026年8月末日現在）。防災士は近い将来、全国で累計50万名、さらには100万名をも展望するわが国の一大民間防災勢力になりつつあります。玉田三郎さんはその防災士の礎を、文字通り“ゼロ”から築いた比類なき防災士制度提唱者であり、かつ周囲の理解者・同調者を呼び込んで、大きなうねり＝民間自立の防災ムーブメントを起こさせた“先覚的イノベーター”（革新者／戦略家）でもありました。

本紙「防災プラス」編集発行人・高嶋三男は、二十数年来、“玉田さんを師と仰ぐ立ち位置”にあってその薫陶を受けて防災メディアに関わってきたこともあり、玉田さんの防災界での業績を高く評価しています。もし、防災界に“殿堂”があるのであれば、防災メディアとして、玉田さんを現代の防災功労者として真っ先に推薦するでしょう。

日本防災士機構『防災士20年の歩み』（本紙・高嶋三男を編集主幹として2023年9月30日発行）によれば、玉田さんは1995年1月17日の阪神・淡路大震災に衝撃を受けて防災に関わります。当時、玉田さんは行政向け広報会社を経営していたことからそのノウハウを活かして、阪神・淡路大震災発災の3カ月後に本格的な防災啓発イベントを企画、発災7カ月後の8月7・8日に自治体防災担当者300名を集め、大震災以降初の「全国自治体 防災と災害救援フォーラム」を企画・開催しました。これが高い評価を得て、玉田さんは1997年4月・防災情報新聞を創刊、さらに1999年12月の「防災士資格制度の提唱」に至ります。

『防災士20年の歩み』は副題に「羅針盤なき航路を進めた一意専心の足跡」とあります。この副題はまさに、玉田三郎さんへの私からの献辞でもありました。

玉田さんは、決して自ら防災士運動の“表に出る人”ではありませんでした。その真意は、「無名で防災経歴の浅い民間人がトップでは伸びしろ」を狭める」というあくまで組織論からの決断でした。そこで玉田さんは、日本防災士機構会長や理事長ポストに誰もが納得しうる傑出した指導者をスカウトしてきたのです。

防災士の制度設計が今日なお揺るぎないのは、設計思想の精緻さにあります。その思想を導いたのは玉田さんの意向を受けて制度設計の任にあたった当時の防災分野の第一線有識者たちでした。いっぽう、防災士養成に向けた「教本」編集者として玉田さんの盟友・橋本茂さん（2024年6月逝去）がいました。防災士養成講座のキラーコンテンツを確立させた幾多の講師の貢献にも大きく負うところがあります。

そうした人材スカウトの成功は玉田さんの手腕によるところが大でしたが、その目の確かさと対となって、スカウトされた人びとも期待を裏切ることがなかった——それが防災士構想の「幸運と成功」を招いたとも言えるのでしょう。

「防災士ムーブメント」の巨星、わが「防災殿堂入り」です——合掌。

《Bosai Plus》編集発行人 高嶋三男



日本防災士機構刊「防災士20年の歩み」（2023年9月発行、本紙・高嶋が編集主幹を務める）。『防災士20年の歩み』は非売品。防災士養成研修機関、行政防災部署、主要図書館、国立国会図書館等に納本されている

ClipBoard 着信あり！

[ClipBoard] は、インターネット上の玉石混淆の情報の大海のなかから、“これは《Bosai Plus》読者に広く知らせたい”という情報の“玉”をみなさまに代わって見つけ出し、その情報へリンクするページです。
*見出しの青文字をクリックすると情報源へジャンプします。
*リンク先での記事削除などの理由で「リンク切れ」となる場合がありますのでご了承ください。

《新着情報》

【官庁情報】

▼内閣官房:防災庁予算 652億円要求へ 前年度比3倍、研究開発推進
(時事通信:2026.08.27.)

内閣官房は防災庁関連の2027年度予算概算要求で652億円を求める方針。26年11月にも同庁が発足することを受け、26年度の関連予算額218億円の約3倍とする。産官学連携による防災技術の研究開発や……

▼地震本部:近畿の地震確率、兵庫や福井・滋賀県北通る8活断層で最も発生率の高い「S」に…断層密集地帯のリスクに自治体は
(読売新聞:2026.08.29.)

政府の地震調査委員会が28日に公表した近畿地方の活断層の長期評価では、8本が最も発生確率の高い「S」(3%以上)と位置づけられ、過去の想定からランクが引き上げられた活断層もあった……

▼復興庁出前授業:「福島復興」をテーマに、復興庁職員が全国の中学校・高校にて実施 一令和8年度復興庁出前授業の開催が決定—
(2026.08.27.)

復興庁では2022年度から実施する全国各地の中学・高等学校へ復興庁職員を派遣する出前授業について、5年目となる本年度も開催する。本年度の出前授業は9月から11月(予定)にかけて、全国7県7校で実施……

▼国土交通省:「レベル5大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動」及び「レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点」
(2026.08.26.)

令和8年8月千葉豪雨を踏まえ「レベル5大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動」及び「レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点」に関するチラシを作成した。大雨による被害軽減に……

▼国土交通省:類似煙突の安全性調査へ 熊本地震での倒壊受け
(時事通信:2026.08.18.)

熊本地震で日本製紙八代工場の煙突が倒壊し9人が死亡したことを受け、金子恭之国土交通相は全国の類似した煙突の安全性調査を進めることを明らかにした。対象となるのは60mを超える鉄筋コンクリート……

▼国土交通省:令和8年熊本地震における建築物構造被害の原因分析を行う委員会(第1回)を開催
(2026.08.18.)

国土交通省及び国立研究開発法人建築研究所は令和8年熊本地震における建築物構造被害の原因分析を行う委員会(第1回)を開催。建築構造の専門家等を委員とし建築物の構造被害の原因分析を行うとともに……

▼気象庁:福井県嶺北に一時レベル5大雨特別警報 30万人緊急安全確保 24時間雨量は4市5地点で観測史上最大
(福井新聞:2026.08.30.)

福井県内は30日、嶺北で記録的な大雨となり気象庁は福井市、大野市、勝山市にレベル5大雨特別警報を発表。3市は全域の12万8321世帯、30万2610人に緊急安全確保を出した。同日午前までの24時間雨量……

▼気象庁:富山、石川に大雨特別警報 線状降水帯発生、安全確保を
(時事通信:2026.08.27.)

能登半島付近は27日未明から大雨となり気象庁は午前6時20分、富山県氷見市と石川県羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町に警戒レベル5の大雨特別警報を発表した。両県では線状降水帯が断続的に発生……

▼気象庁:2026年8月23日02時00分頃の茨城県南部の地震について
(2026.08.23.)

地震発生時刻:8月23日02時00分、M5.9(暫定値)、発生場所:茨城県南部 深さ68km(暫定値)震源機構:東西方向に圧力軸を持つ逆断層型。最大

震度5弱:茨城県・埼玉県・千葉県・東京都合計17市区町村……

▼環境省:避難所トイレの清掃、委託活用を 熊本地震、衛生環境改善へ呼び掛け

(時事通信:2026.08.17.)

熊本県内で最大震度7を観測した地震では、猛暑の中、避難所に設置された仮設トイレの衛生環境改善が課題となっている。環境省と内閣府は、し尿を回収する業者に対して、トイレの清掃も一体的に委託……

【自治体情報】

▼宮城県大崎市:大雨の後に地震が起きたら…複合災害を想定した宮城県の防災訓練 1000人が参加 雨で一部中止も

(FNN仙台放送:2026.08.30.)

大雨と地震を想定した宮城県の総合防災訓練が30日、大崎市で行われた。訓練は大雨で地盤が緩む中、最大震度6強の地震が発生したという想定。会場では土砂に押し流された車が道路をふさいでいる状況を……

▼東京都:被災地に向けこれまで延べ133名の職員を派遣 液体ミルクなど女性視点の支援や暑さ対策などの支援を実施

(2026.08.19.)

東京都は「令和8年熊本地震支援対応調整会議(第5回)」を開催。今回の地震に際して職員や給水車の派遣をはじめ被災者向け都営住宅の確保、義援金の募集など被災地の状況やニーズを踏まえた支援継続……

▼富山県:津波シミュレーション見直し、被害想定を拡大へ「今までにない、他県以上にしっかりした想定に」

(富山テレビ:2026.08.20.)

富山県内で地震や津波が発生した場合の被害想定について検討する県の会合が開かれ、従来の想定よりも津波による被害が大きくなる見通しが示された。能登半島地震を踏まえ、被害想定の見直し作業を……

▼徳島市:防災棟(危機管理センター)・駐車場棟が完成しました!

(2026.08.24.)

南海トラフ地震など今後予見される大規模災害を見据え、市役所本庁舎の災害対応機能の強化を図るため、危機管理センター機能を備えた防災棟及び駐車場棟を整備、8月3日より運用を開始した……

▼高知県:高知市からの広域避難を想定 仁淀川町で宿泊訓練

(高知新聞:2026.08.25.)

仁淀川町の長者地区でこのほど、南海トラフ地震発生後の広域避難を想定した訓練が行われた。高知市の下知地区から約30人が参加し、同町長者地区の住民らと交流を深めた。2市町は2022年11月に協定を……

▼福岡県宇美町:熊本県宇城市へトイレトラックが出動～支え合い、助け合いの災害派遣へ、宇美町のトイレトラック初めての出動～

(2026.08.20.)

令和8年熊本地震で被災した宇城市へ、災害派遣トイレネットワーク「みんな元気になるトイレ」の派遣協力に関する協定に基づき、町が所有する「災害用トイレトラック」が初めての出動・派遣……

【報道クリップ】

▼時事通信:課題山積、遠い日常 4万2000棟被害、なお2500人避難—熊本地震、28日で1カ月

(2026.08.28.)

最大震度7を観測した熊本地震は28日で発生から1カ月となった。記録的な暑さの中、なお2500人近くが避難所に身を寄せる。断水も解消されておらず経済的な被害も深刻だ。復旧・復興に向けた取り組みは……

▼時事通信:年5ミリシーベルト超え、延べ5.3万人 被ばく作業員、事故15

[年で「がん」17件が労災認定・福島第1](#)

(2026.08.24.)

東京電力福島第1原発事故の対応に当たった作業員のうち、厚生労働省が白血病労災認定基準の一つとする年間被ばく線量5ミリシーベルトを超えた人が今年3月末までの約15年間で延べ5万3000人余りに……

[▼時事通信:学校再開へ、各地から教職員チーム 阪神大震災の教訓つなぐー熊本地震](#)

(2026.08.20.)

最大震度7を観測した熊本地震の被災地では夏休み明けの学校再開を支えようと全国各地から教職員の支援チームが現地入りしている。こうした取り組みは1995年阪神・淡路大震災を教訓として兵庫県で始まり……

[▼時事通信:千葉豪雨、死者13人に 浸水2300棟超、放置車両600台](#)

(2026.08.18.)

千葉県を襲った記録的な豪雨で県災害対策本部は18日、新たに男性3人の遺体が見つかり、死者が計13人になったと発表した。住宅被害は全半壊が17棟、一部破損が49棟、浸水は床上、床下合わせて2314棟……

[▼朝日新聞:「2050年の天気予報」12年ぶり改定 酷暑で「外出自粛令」・瞬間風速100m「スーパー台風」](#)

(2026.08.17.)

2050年夏、40度以上の酷暑日がのべ157地点に上り午前11時から午後3時は「外出自粛令」が。食料不足でカツ丼も気軽に食べられない。「2050年の天気予報」を気候変動対策に積極的な企業がつくる団体……

[▼時事通信:千葉豪雨、死者10人に 浸水1500棟](#)

(2026.08.16.)

千葉県を襲った記録的な豪雨で県は16日、千葉市中央区の自宅が停電し発電機を使用していた30代の男性が一酸化炭素中毒で死亡したと発表。市が詳しい状況を調べており関連調査中を含めた死者は計10人……

【海外情報】

[▼時事通信:土石流、時速180kmで崩落 7分で検問所到達、死者797人にー中国・ネパール](#)

(2026.08.30.)

ネパールと中国の国境地帯で起きた土石流災害は死者が30日までに両国合わせて797人に達し、行方不明者は日本人観光客5人を含む3000人超となった。当局の分析によると、土石流は時速180kmで崩落……

[▼時事通信:邦人観光客5人と連絡取れず 洪水の死者150人超ーネパール](#)

(2026.08.27.)

ネパール東部ラサワ郡で26日に起きた大規模な土石流による洪水で、日本人5人を含む国内外の観光客403人と連絡が取れていない。死者は少なくとも157人に達し、他に被災地住民ら多数が行方不明……

[▼時事通信:ハリケーン「ララ」で大規模停電 米ハワイ州、20万超顧客](#)

(2026.08.17.)

米メディアはハワイ州を襲ったハリケーン「ララ」により、企業や世帯など約20万超の顧客が停電の影響を受けていると報じた。米CNNテレビによると、州内で最大のハワイ島の約70%が停電していると……

[▼読売新聞:インドネシアでM7.7の地震、47人死亡…震源付近で高さ1.6mの津波観測](#)

(2026.08.15.)

米地質調査所(USGS)によると15日午前6時(日本時間午前7時)頃、インドネシアのフローレス島付近を震源とするM7.7の地震があった。インドネシア防災当局は建物倒壊などにより少なくとも47人死亡……

【周年災害】

[▼NHKニュース:広島土砂災害12年 安佐南区で追悼行事 遺族も出席し犠牲者悼む](#)

(2026.08.20.)

広島市で77人が犠牲となった土砂災害から20日で12年。広島市安佐南

区では遺族や地域の人が亡くなった人たちを追悼した。2014年8月20日の広島市土砂災害では市内の166か所で土石流や崖崩れが発生……

【防災士関連】

[▼オトナサン:【気象予報士・防災士の橋本真希さん解説】トイレに避難、机の下に逃げる…はもう古い! 令和の“教え”\(2026.08.29.\)](#)

気象予報士・防災士の橋本真希さんに、いつどこで大地震に遭っても自分の身を守るように適切な行動などについて聞きました。昭和時代から言われてきた「トイレに避難」「机の下に避難」という行動は……

[▼JRT四国放送:管理職が「防災士」目指す 徳島大正銀行で講習会](#)

(2026.08.28.)

徳島大正銀行は、災害発生時に必要な防災知識を身につけてもらおうと、管理職を対象に防災士の資格取得に向けた講習会を開きました。南海トラフ巨大地震など災害時の事業継続や人命救助、地域貢献を図る……

[▼朝日新聞:常温保存食品食べSNSで発信 防災士の岡本さん 災害備蓄の参考に](#)

(2026.08.28.)

大阪府大阪狭山市の防災士・岡本裕紀子さん(39)は、常温で長期保存できる食品を実際に食べ、味や価格、保存性、他の食品と組み合わせるなどの活用方法をSNSのInstagram「防災食堂」で発信……

[▼四国アイランドリーグplus:【防災力向上プロジェクト】選手・スタッフが「防災士」資格を取得 ～地域社会の安心・安全と防災意識の向上を目指す～](#)

(2026.08.27.)

四国アイランドリーグplusが推進する「防災力向上プロジェクト」の一環で愛媛マンドリンパイレーツ選手・球団スタッフ関係者が、防災の専門知識を持つ「防災士」資格を取得。地域社会に根ざすスポーツ球団……

[▼朝日新聞:最初の一步は「助けられる側にならない」 防災士になった記者の学び\(2026.08.26.\)](#)

徳島県は今年度、新たに企業・団体向けの防災士養成研修を始めた。南海トラフ巨大地震への備えとして職場や地域で防災の担い手となる人材を育成するのが狙い。7月下旬にあった研修に記者も参加してみた……

[▼朝日新聞:育て中高生の防災リーダー 茨城で広がる活動 昨年43人 防災士合格](#)

(2026.08.25.)

災害時の避難所開設などで中学生や高校生に大きな力になってもらおうと、茨城県内で防災力の育成活動が広がる。実技講習を開いたり、防災士の資格を無料で取得させたり災害時の「助ける側」としての役割が……

【企業・団体広報関連】

[▼電波タイムズ:ソフトバンクと東北大、AIで地震・津波などの災害予測へ 防災研究所を設立](#)

(2026.08.26.)

国立大学法人東北大学とソフトバンクが「ソフトバンク・東北大学 AI for Disaster Science 共創研究所」を東北大学災害科学国際研究所内に……

【アンケート調査・リサーチなど】

[▼ワールドエッグス:パートナーの電話番号、覚えていますか? 既婚者の6割超が即答できず](#)

(2026.08.26.)

日本ロマンチスト協会(東京都)は、9月1日「防災の日」を前に全国の20～49歳の既婚男女300名を対象として、夫婦間の防災に関する実態調査……

[▼日本パープル:良かれと思った備えが「意図せぬ廃棄」へ。企業の防災備蓄、実務担当者の68.8%が期限切れ・廃棄を経験](#)

(2026.08.20.)

全国の就業者10,000名を対象としたスクリーニング調査で勤務先が防災備蓄品を保管と回答したのは4801名(約半数)。一方……